



システム管理

- [管理 IP アドレスの変更](#) (1 ページ)
- [アプリケーション管理 IP の変更](#) (3 ページ)
- [Firepower 4100/9300 シャーシ名の変更](#) (6 ページ)
- [トラスト ID 証明書のインストール](#) (7 ページ)
- [ログイン前バナー](#) (13 ページ)
- [Firepower 4100/9300 シャーシの再起動](#) (16 ページ)
- [Firepower 4100/9300 シャーシの電源オフ](#) (16 ページ)
- [工場出荷時のデフォルト設定の復元](#) (17 ページ)
- [システム コンポーネントの安全な消去](#) (18 ページ)

管理 IP アドレスの変更

始める前に

FXOS CLI から Firepower 4100/9300 シャーシの管理 IP アドレスを変更できます。



(注) 管理 IP アドレスを変更した後、新しいアドレスを使用して Firepower Chassis Manager または FXOS CLI への接続を再確立する必要があります。

手順

ステップ 1 FXOS CLI に接続します ([FXOS CLI へのアクセス](#)を参照)。

ステップ 2 IPv4 管理 IP アドレスを設定するには、次の手順を実行します。

a) fabric-interconnect a のスコープを設定します。

```
Firepower-chassis# scope fabric-interconnect a
```

b) 現在の管理 IP アドレスを表示するには、次のコマンドを入力します。

```
Firepower-chassis /fabric-interconnect # show
```

- c) 次のコマンドを入力して、新しい管理 IP アドレスとゲートウェイを設定します。

```
Firepower-chassis /fabric-interconnect # set out-of-band ip ip_address netmask network_mask gw gateway_ip_address
```

- d) トランザクションをシステム設定にコミットします。

```
Firepower-chassis /fabric-interconnect* # commit-buffer
```

ステップ 3 IPv6 管理 IP アドレスを設定するには、次の手順を実行します。

- a) fabric-interconnect a のスコープを設定します。

```
Firepower-chassis# scope fabric-interconnect a
```

- b) 管理 IPv6 設定のスコープを設定します。

```
Firepower-chassis /fabric-interconnect # scope ipv6-config
```

- c) 現在の管理 IPv6 アドレスを表示するには、次のコマンドを入力します。

```
Firepower-chassis /fabric-interconnect/ipv6-config # show ipv6-if
```

- d) 次のコマンドを入力して、新しい管理 IP アドレスとゲートウェイを設定します。

```
Firepower-chassis /fabric-interconnect/ipv6-config # set out-of-band ipv6 ipv6_address ipv6-prefix prefix_length ipv6-gw gateway_address
```

(注) シャーシの IPv6 管理アドレスとしてサポートされるのは、IPv6 グローバルユニキャストアドレスのみです。

- e) トランザクションをシステム設定にコミットします。

```
Firepower-chassis /fabric-interconnect/ipv6-config* # commit-buffer
```

例

次の例では、IPv4 管理インターフェイスとゲートウェイを設定します。

```
Firepower-chassis# scope fabric-interconnect a
Firepower-chassis /fabric-interconnect # show

Fabric Interconnect:
  ID   OOB IP Addr   OOB Gateway   OOB Netmask   OOB IPv6 Address OOB IPv6 Gateway
  Prefix Operability
  ----
  A    192.0.2.112   192.0.2.1     255.255.255.0  ::              ::
  64   Operable

Firepower-chassis /fabric-interconnect # set out-of-band ip 192.0.2.111 netmask
255.255.255.0 gw 192.0.2.1
Warning: When committed, this change may disconnect the current CLI session
Firepower-chassis /fabric-interconnect* #commit-buffer
Firepower-chassis /fabric-interconnect #
```

次の例では、IPv6 管理インターフェイスとゲートウェイを設定します。

```
Firepower-chassis# scope fabric-interconnect a
Firepower-chassis /fabric-interconnect # scope ipv6-config
Firepower-chassis /fabric-interconnect/ipv6-config # show ipv6-if

Management IPv6 Interface:
  IPv6 Address          Prefix      IPv6 Gateway
  -----
  2001::8998            64         2001::1
Firepower-chassis /fabric-interconnect/ipv6-config # set out-of-band ipv6 2001::8999
ipv6-prefix 64 ipv6-gw 2001::1
Firepower-chassis /fabric-interconnect/ipv6-config* # commit-buffer
Firepower-chassis /fabric-interconnect/ipv6-config #
```

アプリケーション管理 IP の変更

FXOS CLI から Firepower 4100/9300 シャーシに接続されたアプリケーションの管理 IP アドレスは変更できます。そのためには、まず FXOS プラットフォーム レベルで IP 情報を変更し、次にアプリケーション レベルで IP 情報を変更する必要があります。



(注) アプリケーション管理 IP を変更すると、サービスの中断が発生します。

手順

ステップ 1 FXOS CLI に接続します。(FXOS CLI へのアクセスを参照)。

ステップ 2 範囲を論理デバイスにします。

```
scope ssa
```

```
scope logical-device logical_device_name
```

ステップ 3 範囲を管理ブートストラップにし、新しい管理ブートストラップパラメータを設定します。導入間で違いがあることに注意してください。

ASA 論理デバイスのスタンドアロンの設定の場合。

a) 論理デバイスのブートストラップに入ります。

```
scope mgmt-bootstrap asa
```

b) スロットを IP モードにします。

```
scope ipv4_or_6 slot_number default
```

c) (IPv4 のみ) 新しい IP アドレスを設定します。

```
set ip ipv4_address mask network_mask
```

d) (IPv6 のみ) 新しい IP アドレスを設定します。
set ip ipv6_address prefix-length prefix_length_number

e) ゲートウェイ アドレスを設定します。
set gateway gateway_ip_address

f) 設定をコミットします。
commit-buffer

ASA 論理デバイスのクラスタ設定の場合。

a) クラスタ管理ブートストラップに入ります。
scope cluster-bootstrap asa

b) (IPv4 のみ) 新しい仮想 IP を設定します。
set virtual ipv4 ip_address mask network_mask

c) (IPv6 のみ) 新しい仮想 IP を設定します。
set virtual ipv6 ipv6_address prefix-length prefix_length_number

d) 新しい IP プールを設定します。
set ip pool start_ip end_ip

e) ゲートウェイ アドレスを設定します。
set gateway gateway_ip_address

f) 設定をコミットします。
commit-buffer

Firepower Threat Defense のスタンドアロン設定およびクラスタ設定の場合。

a) 論理デバイスのブートストラップに入ります。
scope mgmt-bootstrap ftd

b) スロットを IP モードにします。
scope ipv4_or_6 slot_number firepower

c) (IPv4 のみ) 新しい IP アドレスを設定します。
set ip ipv4_address mask network_mask

d) (IPv6 のみ) 新しい IP アドレスを設定します。
set ip ipv6_address prefix-length prefix_length_number

e) ゲートウェイ アドレスを設定します。
set gateway gateway_ip_address

f) 設定をコミットします。
commit-buffer

- (注) クラスタ設定の場合、Firepower 4100/9300 シャーシに接続されているアプリケーションごとに新しい IP アドレスを設定する必要があります。シャーシ間クラスタまたは HA 設定の場合、両方のシャーシでアプリケーションごとにこれらのステップを繰り返す必要があります。

ステップ 4 アプリケーションごとに管理ブートストラップ情報をクリアします。

- a) 範囲を `ssa` モードにします。

scope ssa

- b) 範囲をスロットにします。

scope slot slot_number

- c) 範囲をアプリケーションインスタンスにします。

scope app-instance asa_or_ftd

- d) 管理ブートストラップ情報をクリアします。

clear-mgmt-bootstrap

- e) 設定を確定します。

commit-buffer

ステップ 5 アプリケーションを無効にします。

disable

commit-buffer

- (注) クラスタ設定の場合、Firepower 4100/9300 シャーシに接続されているアプリケーションごとに管理ブートストラップ情報をクリアし、無効にする必要があります。シャーシ間クラスタまたは HA 設定の場合、両方のシャーシでアプリケーションごとにこれらのステップを繰り返す必要があります。

ステップ 6 アプリケーションがオフラインで、スロットが再度オンラインになったときに、アプリケーションを再度有効にします。

- a) 範囲を `ssa` モードに戻します。

scope ssa

- b) 範囲をスロットにします。

scope slot slot_number

- c) 範囲をアプリケーションインスタンスにします。

scope app-instance asa_or_ftd

- d) アプリケーションを有効にします。

enable

- e) 設定を確定します。

commit-buffer

- (注) クラスタ設定の場合、これらのステップを繰り返して、Firepower 4100/9300 シャーシに接続されている各アプリケーションを再度有効にします。シャーシ間クラスタまたはHA設定の場合、両方のシャーシでアプリケーションごとにこれらのステップを繰り返す必要があります。

Firepower 4100/9300 シャーシ名の変更

Firepower 4100/9300 シャーシに使用する名前を FXOS CLI から変更することができます。

手順

ステップ 1 FXOS CLI に接続します ([FXOS CLI へのアクセス](#)を参照)。

ステップ 2 システム モードに入ります。

```
Firepower-chassis-A# scope system
```

ステップ 3 現在の名前を表示します。

```
Firepower-chassis-A /system # show
```

ステップ 4 新しい名前を構成します。

```
Firepower-chassis-A /system # set name device_name
```

ステップ 5 トランザクションをシステム設定にコミットします。

```
Firepower-chassis-A /fabric-interconnect* # commit-buffer
```

例

次の例では、デバイス名を変更します。

```
Firepower-chassis-A# scope system
Firepower-chassis-A /system # set name New-name
Warning: System name modification changes FC zone name and redeploys them non-disruptively
Firepower-chassis-A /system* # commit-buffer
Firepower-chassis-A /system # show

Systems:
  Name           Mode           System IP Address System IPv6 Address
  -----
  New-name      Stand Alone   192.168.100.10   ::
New-name-A /system #
```

トラスト ID 証明書のインストール

初期設定後に、自己署名 SSL 証明書が Firepower 4100/9300 シャーシ Web アプリケーションで使用するために生成されます。その証明書は自己署名であるため、クライアントブラウザが自動的に信頼することはありません。新しいクライアントブラウザで Firepower 4100/9300 シャーシ Web インターフェイスに初めてアクセスするときに、ブラウザは SSL 警告をスローして、ユーザが Firepower 4100/9300 シャーシにアクセスする前に証明書を受け入れることを要求します。FXOS CLI を使用して証明書署名要求 (CSR) を生成し、Firepower 4100/9300 シャーシで使用する結果の ID 証明書をインストールするには、以下の手順を使用できます。この ID 証明書により、クライアントブラウザは接続を信頼し、警告なしで Web インターフェイスを起動できるようになります。

手順

ステップ 1 FXOS CLI に接続します。 ([FXOS CLI へのアクセス](#) を参照)。

ステップ 2 セキュリティ モジュールを入力します。

scope security

ステップ 3 キーリングを作成します。

create keyring keyring_name

ステップ 4 秘密キーのモジュラス サイズを設定します。

set modulus size

ステップ 5 設定をコミットします。

commit-buffer

ステップ 6 CSR フィールドを設定します。証明書は、基本オプション (subject-name など) を指定して生成できます。さらに任意で、ロケールや組織などの情報を証明書に組み込むことができる詳細オプションを指定できます。CSR フィールドを設定する場合、システムにより証明書パスワードの入力が求められることに注意してください。

create certreq certreq subject_name

password

set country country

set state state

set locality locality

set org-name organization_name

set org-unit-name organization_unit_name

set subject-name subject_name

ステップ 7 設定をコミットします。

commit-buffer

ステップ 8 認証局に提供する CSR をエクスポートします。認証局は CSR を使用して ID 証明書を作成します。

a) 完全な CSR を表示します。

show certreq

b) 「-----BEGIN CERTIFICATE REQUEST-----」から「-----END CERTIFICATE REQUEST-----」までの出力をコピーします。

例 :

```
-----BEGIN CERTIFICATE REQUEST-----
MIIC6zCCAdMCAQAwdzELMAkGA1UEBhMCVVMxEzARBgNVBAGMCKNhbg1mb3JuaWEEx
ETAPBgNVBACMFNhb3N1MRyWFAyDVQKDA1DaXNjbyBTeXN0ZW1zMQwwCgYD
VQQLDANUQUxGjAYBgNVBAMMEWZwNDEyMC50ZXN0LmxxvY2FsMIIBIjANBgkqhkiG
9w0BAQEFAAOCAQ8AMIIBCgKCAQEAs0N5gagkfZ2fi4JVEANG+7YGgcHbnUt7LpV
yMChnKOPJjBwkUMNQAlmQsRQDcbJ232/sK0fMSnyqOL8JzC7itxeVEZRYz7/ax7W
GNveg/XP+zd03nt4GXM63FsrPcPmA7EwgqDLoShtBEV10hhf4+Nw4pKCZ+eSSkS
JkTB1ZHaKV9btYg3kf/UEUUGk/EyrVq3B+u2DsooPVq76mTm8BwYMGHbJEv4Pmu
RjWE88yEvVwH7JTEij9OvxbatjDjVSHZBURtCanvyBvGuLP/Q/Nmv3Lo3G9ITbL
L5gIYZVatTxp6HTUezH2MIIZoavU6d1tB9rnyxgGth5dPV0dhQIDAQABoC8wLQYJ
KoZlHvcNAQkOMSAwHjAcBgnVHREFTATghFmcDQxMjAudGVzdC5sb2NhbdANBgkq
hkiG9w0BAQsFAAOCAQEAAZUfCbwx9vt5aVDcL+tATu5xFE3LA310ck6Gj1Nv6W/6r
jBNLxusYilrZZcW+CgnvNs4ArqYGyNVBySOavJO/VvQ1KfyxxJ10Ikyx3RzEjgK0
zzyoyrG+EZXCS5ShiraS8HuWvE2wFM2wwWNtHWtvcQy55+/hDPD2Bv8pQOC2Zng3I
kLfG1dxWf1xAxLzf5J+AuIQ0CM5HzM9Zm8zREoWT+xHtLSqAqg/aCuomN9/vEwyU
OYfoJMvAqC6AZyUnMfUfCoyuLpLwgkxB0gyaRdnea5RhiGjYQ21DXyDjExp7rCx9
+6bvD1n70JCegHdCWtP75SaNyaBEPk00365rTckbw==
-----END CERTIFICATE REQUEST-----
```

ステップ 9 certreq モードを終了します。

exit

ステップ 10 キーリング モードを終了します。

exit

ステップ 11 認証局の登録プロセスに従って認証局に CSR の出力を提供します。要求が成功すると、認証局はこの CA の秘密キーを使用してデジタル署名された ID 証明書が返されます。

ステップ 12 (注) FXOS にインポートするすべての ID 証明書は、Base64 形式でなければなりません。認証局から受信した ID 証明書チェーンの形式が多様である場合は、まずそれを OpenSSL などの SSL ツールを使用して変換する必要があります。

ID 証明書チェーンを保持する新規トラストポイントを作成します。

create trustpoint trustpoint_name

ステップ 13 画面の指示に従って、手順 11 で認証局から受信した ID 証明書チェーンを入力します。

(注) 中間証明書を使用する認証局の場合は、ルートと中間証明書とを結合させる必要があります。テキストファイルで、ルート証明書を一番上にペーストし、それに続いてチェーン内の各中間証明書をペーストします。この場合、すべての BEGIN CERTIFICATE フラグと END CERTIFICATE フラグを含めます。この全体のテキストブロックを、トラストポイントにコピーアンドペーストします。

set certchain

例：

```
firepower /security/trustpoint* # set certchain
Enter lines one at a time. Enter ENDOFBUF to finish. Press ^C to abort.
Trustpoint Certificate Chain:
>-----BEGIN CERTIFICATE-----
>MIIICDTCCAbOgAwIBAgIQYIutxPDPw6BOP3uKNgJHZDAKBggqhkjOPQQDAjBTMRUw
>EwYKZCZImiZPyLQGBGRYFbG9jYWwxGDAWBgoJkiaJk/IsZAEZFghuYWF1c3RpbjEg
>MB4GA1UEAxMXbmFhdXN0aW4tTkFBVVNUSU4tUEMtQ0EwHhcNMTUwNzI4MTc1NjU2
>WhcNMjAwNzI4MTgwNjU2WjBTMRUwEwYKZCZImiZPyLQGBGRYFbG9jYWwxGDAWBgoJ
>kiaJk/IsZAEZFghuYWF1c3RpbjEgMB4GA1UEAxMXbmFhdXN0aW4tTkFBVVNUSU4t
>UEMtQ0EwWTATBgcqhkiOPIBBggqhkjOPQMBBwNCAASvEA27V1Enq1gMtLkvJ6rx
>GXRpXWIEyuiBM4eQRoqZKnkeJUkmlxmqlubaDHPJ5TMGfJQYszLBRJPq+mdrKcDl
>o2kwZzATBgkrBgEEAYI3FAIEBh4EAEMAQTAOBgNVHQ8BAf8EBAMCAYwDwYDVR0T
>AQH/BAUwAwEB/zAdBgNVHQ4EFgQUyInbDHPFwEEBcbxGSGQW7pOVlkWEAYJKWYB
>BAGCNxUBBAMCAQAwCgYIKoZIzj0EAwIDSAAwRQIhAp++QJTUmniB/AxPDDN63Lqy
>18oMDMoFTkG4p3Tb/2yMAiAtMYh1sv1gCxsQVow0xZVRugSdoOak6n7wcJTFX9jr
>RA==
>-----END CERTIFICATE-----
>ENDOFBUF
```

ステップ 14 設定をコミットします。

commit-buffer

ステップ 15 トラストポイント モードを終了します。

exit

ステップ 16 キーリング モードに入ります。

scope keyring *keyring_name*

ステップ 17 ステップ 13 で作成されたトラストポイントを、CSR に作成されたキーリングに関連付けます。

set trustpoint *trustpoint_name*

ステップ 18 サーバの署名付き ID 証明書をインポートします。

set cert

ステップ 19 認証局により提供された ID 証明書の内容をペーストします。

例：

```
Enter lines one at a time. Enter ENDOFBUF to finish. Press ^C to abort.
Keyring certificate:
>-----BEGIN CERTIFICATE-----
>MIIIE8DCCBJagAwIBAgITRQAAAAeh1UWgiTzvgAAAAACjAKBggqhkjOPQQDAjBT
>MRUwEwYKZCZImiZPyLQGBGRYFbG9jYWwxGDAWBgoJkiaJk/IsZAEZFghuYWF1c3RpbjEg
>bjEgMB4GA1UEAxMXbmFhdXN0aW4tTkFBVVNUSU4tUEMtQ0EwHhcNMTUwNzI4MTc1NjU2
>OTU0WhcNMTgwNDI4MTMwOTU0WjBTMRUwEwYKZCZImiZPyLQGBGRYFbG9jYWwxGDAWBgoJ
>aWZvcM5pYTERMA8GA1UEBxMIU2FuIEpvc2UxZjAUBGNVBAoTDUNpc2NvIFN5c3Rl
```

```

>bXMxDDAKBgNVBAStA1RBQzEaMBGGA1UEAxMRZnA0MTIwLnRlc3QubG9jYVwwggEi
>MA0GCSqGS Ib3DQEBAQUAA4IBDwAwggEKAoIBAQCzQ43mBqCR9nZ+LglUQA0b7tga
>Bwduds3sulXIwKGo48mMHCQRQw1ADWZCxFANxsnbfb+wrR8xKfKo4vwnMLuK3F5U
>R1LHLpv9rHtYY296D9c/7N3Tee3gZczrcWys9w+YDsTCCoNIuhKGOERXXSGF/j43D
>ikoJn55JKRImRMHVkdopX1u21iDeR/9QRRSCT8TKtWrcH67YOyig9WrvqZObwHBg
>yodskS/g+a5GNyTzzIS9XAfsLMSKP06/Ftq2MONVIkdKFRG0Jqe/IG8a4s/9D82a
>/cuqjcb0hNssvmAhhlVq1PGnodNR7MfYwgjM5q9Tp3W0H2ufLGaa2H109XR2FAGMB
>AAGjggjYMIICVDACBgNVHREEFtATghFmcDQxMjAudGVzdC5sb2NhbDAdBgNVHQ4E
>FgQU/lWpstiEYExs8DlZWcuHZwPtU5QwHwYDVR0jBBgwFoAUyInbDHPPrFwEEBcbx
>GSgQW7pOVIkwgdwGA1UdHwSB1DCB0TCBzqCBY6CByIaBxWxkYXA6Ly8vQ049bmFh
>dXN0aw4tTkFBVVNUSU4tUEMTQ0EsQ049bmFhdXN0aw4tcmGMsQ049Q0RQLENOPVB1
>YmxpYyYyMEt1eSUyMFN1cnZpY2VzLENOPVN1cnZpY2VzLENOPUNvbmZpZ3VYXRp
>b24sREM9bmFhdXN0aw4sREM9bG9jYVww/Y2VydG1maWNhdGVsZXZvY2F0aw9uTG1z
>dD9iYXN1P29iamVjdENsYXNzPWNSTERpc3RyaWJldGlvblBvaW50MIHMBggrBgEF
>BQcBAQSBvzCBvDCBuQYIKwYBBQUHMAKGgaxsZGFwOi8vL0NOPW5hYXVzdGluLU5B
>QVVVTE1OLVBDLUNBLENOPUFJQSxDTj1QdWJsaWMLMjBjBTZXJ2aWN1cyxD
>Tj1TZXJ2aWN1cyxDj1Db25maWd1cmF0aw9uLERDPW5hYXVzdGluLERDPWxvY2Fs
>P2NBQ2VydG1maWNhdGU/YmFzZT9vYmplY3RDbGFzZz1jZXJ0awZpY2F0aw9uQXV0
>aG9yaXR5MCEGCSsGAQQBgjcUAgQUHhIAVwBlAGIAUwBlAHIAAgBlAHIAwDgYDVR0P
>AQH/BAQDAgWgMBMGA1UdJQMMAoGCCsGAQUFBwMBMAoGCCqGSM49BAMCA0gAMEUC
>IFew7NcJirEtFRvyxjkQ4/dVo2oI6CRB308WQbYHNuU/AiEA7UdObisJBG/PBZjm
>sgoIK60akbjotOTvUdUd9b6K1Uw=
>-----END CERTIFICATE-----
>ENDOFBUF

```

ステップ 20 キーリング モードを終了します。

```
exit
```

ステップ 21 セキュリティ モードを終了します。

```
exit
```

ステップ 22 システム モードに入ります。

```
scope system
```

ステップ 23 サービス モードに入ります。

```
scope services
```

ステップ 24 新しい証明書を使用するように FXOS Web サービスを設定します。

```
set https keyring keyring_name
```

ステップ 25 設定をコミットします。

```
commit-buffer
```

ステップ 26 HTTPS サーバに関連付けられているキーリングを表示します。これにはこの手順の手順 3 で作成したキーリングの名前が反映することになります。画面出力にデフォルトのキーリング名が表示される場合には、HTTPS サーバはまだ、新しい証明書を使用するように更新されていません。

```
show https
```

例：

```

fp4120 /system/services # show https
Name: https
Admin State: Enabled

```

```

Port: 443
Operational port: 443
Key Ring: firepower_cert
Cipher suite mode: Medium Strength
Cipher suite:
ALL:!ADH:!EXPORT40:!EXPORT56:!LOW:!RC4:!MD5:!IDEA:+HIGH:+MEDIUM:+EXP:+eNULL

```

ステップ 27 インポートされた証明書の内容を表示し、**Certificate Status**値が**Valid**と表示されることを確認します。

scope security

show keyring keyring_name detail

例：

```

fp4120 /security # scope security
fp4120 /security # show keyring firepower_cert detail
Keyring firepower_cert:
  RSA key modulus: Mod2048
  Trustpoint CA: firepower_chain
Certificate status: Valid
Certificate:
Data:
  Version: 3 (0x2)
  Serial Number:
    45:00:00:00:0a:de:86:55:16:82:24:f3:be:00:00:00:00:00:0a
  Signature Algorithm: ecdsa-with-SHA256
  Issuer: DC=local, DC=naaustin, CN=naaustin-NAAUSTIN-PC-CA
  Validity
    Not Before: Apr 28 13:09:54 2016 GMT
    Not After : Apr 28 13:09:54 2018 GMT
  Subject: C=US, ST=California, L=San Jose, O=Cisco Systems, OU=TAC,
  CN=fp4120.test.local
  Subject Public Key Info:
    Public Key Algorithm: rsaEncryption
    Public-Key: (2048 bit)
    Modulus:
      00:b3:43:8d:e6:06:a0:91:f6:76:7e:2e:09:54:40:
      0d:1b:ee:d8:1a:07:07:6e:75:2d:ec:ba:55:c8:c0:
      a1:9c:a3:8f:26:30:70:91:43:0d:40:0d:66:42:c4:
      50:0d:c6:c9:db:7d:bf:b0:ad:1f:31:29:f2:a8:e2:
      fc:27:30:bb:8a:dc:5e:54:46:51:cb:3e:ff:6b:1e:
      d6:18:db:de:83:f5:cf:fb:37:74:de:7b:78:19:73:
      3a:dc:5b:2b:3d:c3:e6:03:b1:30:82:a0:d2:2e:84:
      a1:b4:11:15:d7:48:61:7f:8f:8d:c3:8a:4a:09:9f:
      9e:49:29:12:26:44:c1:d5:91:da:29:5f:5b:b6:d6:
      20:de:47:ff:50:45:14:82:4f:c4:ca:b5:6a:dc:1f:
      ae:d8:3b:28:a0:f5:6a:ef:a9:93:9b:c0:70:60:ca:
      87:6c:91:2f:e0:f9:ae:46:35:84:f3:cc:84:bd:5c:
      07:ec:94:c4:8a:3f:4e:bf:16:da:b6:30:e3:55:22:
      47:64:15:11:b4:26:a7:bf:20:6f:1a:e2:cf:fd:0f:
      cd:9a:fd:cb:a3:71:bd:21:36:cb:2f:98:08:61:95:
      5a:b5:3c:69:e8:74:d4:7b:31:f6:30:82:33:39:ab:
      d4:e9:dd:6d:07:da:e7:cb:18:06:b6:1e:5d:3d:5d:
      1d:85
    Exponent: 65537 (0x10001)
  X509v3 extensions:
    X509v3 Subject Alternative Name:
      DNS:fp4120.test.local
    X509v3 Subject Key Identifier:
      FF:55:A9:B2:D8:84:60:4C:6C:F0:39:59:59:CB:87:67:03:ED:BB:94
    X509v3 Authority Key Identifier:

```

```

keyid:C8:89:DB:0C:73:EB:17:01:04:05:C6:F1:19:28:10:5B:BA:4E:54:89
X509v3 CRL Distribution Points:
  Full Name:
    URI:ldap:///CN=naaustin-NAAUSTIN-PC-CA,CN=naaustin-pc,CN=CDP,
      CN=Public%20Key%20Services,CN=Services,CN=Configuration,DC=naaustin,
DC=local?certificateRevocationList?base?objectClass=cRLDistributionPoint
  Authority Information Access:
    CA Issuers - URI:ldap:///CN=naaustin-NAAUSTIN-PC-CA,CN=AIA,
      CN=Public%20Key%20Services,CN=Services,CN=Configuration,DC=naaustin,
      DC=local?cACertificate?base?objectClass=certificationAuthority
1.3.6.1.4.1.311.20.2:
  ..W.e.b.S.e.r.v.e.r
X509v3 Key Usage: critical
  Digital Signature, Key Encipherment
X509v3 Extended Key Usage:
  TLS Web Server Authentication
Signature Algorithm: ecdsa-with-SHA256
30:45:02:20:57:b0:ec:d7:09:8a:b1:2d:15:1b:f2:c6:39:10:
e3:f7:55:a3:6a:08:e8:24:41:df:4f:16:41:b6:07:35:4b:bf:
02:21:00:ed:47:4e:6e:24:89:04:6f:cf:05:98:e6:b2:0a:08:
2b:ad:1a:91:b8:e8:b4:e4:ef:51:d5:1d:f5:be:8a:d5:4c
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIE8DCCBJagAwIBAgITRQAAAArehlUWgiTzvgAAAAAACjAKBggqhkJOPQDQAJBT
MRUwEwYKZImiZPyLQBGRYFbG9jYwWxGDAWBgoJkiaJk/IsZAEZFghuYWF1c3Rp
bjEgMB4GA1UEAxMxbmFhdXN0aW4tTkFBVVNUSU4tUEMTQ0EwHhcNMTYwNDI4MTMw
OTU0WWhcNMTgwNDI4MTMwOTU0WjB3MQswCQYDVQGEWJVVzETMBEGA1UECBMkQ2Fs
aWZvcms5pYTERMA8GALUEBxMIU2FuIEpvc2UxYjAUBG9NVBAoTDUNpc2NvIFN5c3Rl
bXNxDAAKBgNVBAStA1RBQzEaMBGALUEAxMRZnA0MTIwLnRlc3QubG9jYwWwggEi
MA0GCSqGSIb3DQEBAQUAA4IBDwAwggEKAoIBAQCzQ43mBqCR9nZ+LglUQA0b7tga
BwdudS3sulXIwKGCco48MHCRQw1ADWZCxFANxsnbfb+wrR8xKfKo4vwnMLuK3F5U
RlHLPv9rHtYY296D9c/7N3Tee3gZczrcWys9w+YDsTCCoNIuhKG0ERXXSGF/j43D
ikoJn55JKRImRMHVkdopXlu21iDeR/9QRRSCT8TKtWrcH67YOyig9WrvqZObwHBg
yodskS/g+a5GNYTzzIS9XAFslMSKP06/Ftq2MONVIkdKFRG0Jqe/IG8a4s/9D82a
/cujcb0hNssvmAhhlVq1PGnodNR7mfYwgjm5q9Tp3W0H2ufLGAA2H109XR2FAGMB
AAGjggYMIICVDAcBgNVHREEFtATghFmcDQxMjAudGVzdC5sb2NhbDAdBgNVHQ4E
FgQU/1WpstieYExs8DlZwcuHZwPtU5QwHwYDVR0jBBGwFoAUyInbDHPPrFwEEBcbx
GSgQW7pOVIkwgdwGALUdHwSB1DCB0TCBzqCBy6CByIaBxWxkYXA6Ly8vQ049bmFh
dXN0aW4tTkFBVVNUSU4tUEMTQ0EwHhcNMDA0OTU0EwHhcNMDA0OTU0RQLENOPVB1
YmXpYyUyMETleSUyMFN1cnZpY2VzLENOPVN1cnZpY2VzLENOPUNvbmZpZ3VyYXRp
b24sREM9bmFhdXN0aW4sREM9bG9jYwW/Y2VydG1maWNhdGVsZXZvY2F0aW9uTG1z
dD9iYXNlP29iamVjdENSYXNzPWNwNTERpc3RyaWJldGlvb1BvaW50IHMBGgrBgEF
BQcBAQSBvCBvDCBuQYIKwYBBQUHMAKGgaxsZGFwOi8vL0NOPW5hYXVzdGluLU5B
QVVVTEl0LVBDLUNBLENOPUFJQSxDTj1QdWJsaW1mJmJBLZkx1mJBTZXJ2aWw1cyxD
Tj1TZXJ2aWw1cyxDTj1Db25maWd1cmF0aW9uLERDPW5hYXVzdGluLERDPWxvY2Fs
P2NBQ2VydG1maWNhdGU/YmFzZT9vYmYyY3RDbGFzZz1jZXJ0aWZpY2F0aW9uQXV0
aG9yaXR5MCEGCSsGAQQBgjcUAUgQUHhIAVwBlAGIAUwBlAHIAAdgBlAHIAIdG9YDVR0P
AQH/BAQDAgWgMBMGALUdJQQMMAoGCCsGAQUFBwMBMAoGCCcGSM49BAMCA0gAMEUC
IFew7NcJirEtFRvyxjkQ4/dVo2oI6CRB308WQbYHNUu/AiEA7UdObiSJBG/PBZjm
sgoIK60akbjotOTvUdUd9b6K1Uw=
-----END CERTIFICATE-----

Zeroized: No

```

次のタスク

新しい信頼できる証明書が存在していることを確認するには、Web ブラウザのアドレス バーに `https://<FQDN_or_IP>/` と入力して、Firepower Chassis Manager に移動します。



- (注) ブラウザはさらに、アドレスバーの入力内容に照らして証明書のサブジェクト名を確認します。証明書が完全修飾ドメイン名に対して発行されている場合、ブラウザでもそのようにアクセスする必要があります。IPアドレスを使用してアクセスすると、信頼できる証明書が使用されているとしても、別のSSLエラー（共通名が無効）がスローされます。

ログイン前バナー

ログイン前バナーでは、ユーザが Firepower Chassis Manager にログインするとシステムにバナーテキストが表示されます。ユーザ名とパスワードのシステムプロンプトの前に、メッセージの画面で [OK] をクリックする必要があります。ログイン前バナーを設定しないと、システムはユーザ名とパスワードのプロンプトにすぐに進みます。

ユーザが FXOS CLI にログインすると、設定されている場合はシステムがパスワードのプロンプトの前にログインバナーテキストを表示します。

ログイン前バナーの作成

手順

- ステップ 1** FXOS CLI に接続します（[FXOS CLIへのアクセス](#)を参照）。
- ステップ 2** セキュリティモードを開始します。
- ```
Firepower-chassis# scope security
```
- ステップ 3** バナーセキュリティモードに入ります。
- ```
Firepower-chassis /security # scope banner
```
- ステップ 4** 次のコマンドを入力して、ログイン前バナーを作成します。
- ```
Firepower-chassis /security/banner # create pre-login-banner
```
- ステップ 5** Firepower Chassis Manager または FXOS CLI へのログイン前のユーザに FXOS が表示するメッセージを指定します。
- ```
Firepower-chassis /security/banner/pre-login-banner* # set message
```
- ログイン前バナーメッセージのテキストを入力するためのダイアログを開始します。
- ステップ 6** プロンプトで、ログイン前バナーメッセージを入力します。このフィールドには、標準のASCII文字を入力できます。複数行のテキストを入力できますが、各行の最大文字数は192文字です。行の区切りで Enter キーを押します。
- 入力内容の次の行に **ENDOFBUF** と入力し、**Enter** キーを押して終了します。

[メッセージの設定 (set message)] ダイアログをキャンセルするには、**Ctrl+C** キーを押します。

ステップ 7 トランザクションをシステム設定にコミットします。

```
Firepower-chassis /security/banner/pre-login-banner* # commit-buffer
```

例

次の例は、ログイン前バナーを作成します。

```
Firepower-chassis# scope security
Firepower-chassis /security # scope banner
Firepower-chassis /security/banner # create pre-login-banner
Firepower-chassis /security/banner/pre-login-banner* # set message
Enter lines one at a time. Enter ENDQFBUF to finish. Press ^C to abort.
Enter prelogin banner:
>Welcome to the Firepower Security Appliance
>***Unauthorized use is prohibited**
>ENDQFBUF
Firepower-chassis /security/banner/pre-login-banner* # commit-buffer
Firepower-chassis /security/banner/pre-login-banner #
```

ログイン前バナーの変更

手順

ステップ 1 FXOS CLI に接続します ([FXOS CLI へのアクセス](#)を参照)。

ステップ 2 セキュリティ モードを開始します。

```
Firepower-chassis# scope security
```

ステップ 3 バナー セキュリティ モードに入ります。

```
Firepower-chassis /security # scope banner
```

ステップ 4 ログイン前バナーのバナー セキュリティ モードに入ります。

```
Firepower-chassis /security/banner # scope pre-login-banner
```

ステップ 5 Firepower Chassis Manager または FXOS CLI へのログイン前のユーザに FXOS が表示するメッセージを指定します。

```
Firepower-chassis /security/banner/pre-login-banner # set message
```

ログイン前バナー メッセージのテキストを入力するためのダイアログを開始します。

ステップ 6 プロンプトで、ログイン前バナー メッセージを入力します。このフィールドには、標準の ASCII 文字を入力できます。複数行のテキストを入力できますが、各行の最大文字数は 192 文字です。行の区切りで **Enter** キーを押します。

入力内容の次の行に **ENDOFBUF** と入力し、**Enter** キーを押して終了します。

[メッセージの設定 (set message)] ダイアログをキャンセルするには、**Ctrl+C** キーを押します。

ステップ 7 トランザクションをシステム設定にコミットします。

```
Firepower-chassis /security/banner/pre-login-banner* # commit-buffer
```

例

次に、ログイン前バナーを変更する例を示します。

```
Firepower-chassis# scope security
Firepower-chassis /security # scope banner
Firepower-chassis /security/banner # scope pre-login-banner
Firepower-chassis /security/banner/pre-login-banner # set message
Enter lines one at a time. Enter ENDOFBUF to finish. Press ^C to abort.
Enter prelogin banner:
>Welcome to the Firepower Security Appliance
>**Unauthorized use is prohibited**
>ENDOFBUF
Firepower-chassis /security/banner/pre-login-banner* # commit-buffer
Firepower-chassis /security/banner/pre-login-banner #
```

ログイン前バナーの削除

手順

ステップ 1 FXOS CLI に接続します ([FXOS CLIへのアクセス](#)を参照)。

ステップ 2 セキュリティ モードを開始します。

```
Firepower-chassis# scope security
```

ステップ 3 バナー セキュリティ モードに入ります。

```
Firepower-chassis /security # scope banner
```

ステップ 4 システムからログイン前バナーを削除します。

```
Firepower-chassis /security/banner # delete pre-login-banner
```

ステップ 5 トランザクションをシステム設定にコミットします。

```
Firepower-chassis /security/banner* # commit-buffer
```

例

次に、ログイン前バナーを削除する例を示します。

```
Firepower-chassis# scope security
Firepower-chassis /security # scope banner
Firepower-chassis /security/banner # delete pre-login-banner
Firepower-chassis /security/banner* # commit-buffer
Firepower-chassis /security/banner #
```

Firepower 4100/9300 シャーシの再起動

手順

ステップ1 シャーシモードに入ります。

```
scope chassis 1
```

ステップ2 次のコマンドを入力して、シャーシをリブートします。

```
reboot [reason] [no-prompt]
```

(注) **[no-prompt]** キーワードを使用した場合、コマンドを入力するとシャーシはすぐにリブートします。**[no-prompt]** キーワードを使用しない場合、システムはユーザが **commit-buffer** コマンドを入力するまでリブートしません。

システムはそのシステム上で構成されているすべての論理デバイスをグレースフルにシャットダウンし、最終的に Firepower 4100/9300 シャーシの電源をオフにして再始動する前に、セキュリティ モジュール/エンジンの電源を個別にオフにします。このプロセスには約 15 ~ 20 分かかります。

ステップ3 リブートプロセスをモニタするには、次の手順を実行します。

```
scope chassis 1
```

```
show fsm status
```

Firepower 4100/9300 シャーシの電源オフ

手順

ステップ1 シャーシモードに入ります。

```
scope chassis 1
```

ステップ2 次のコマンドを入力して、シャーシを電源オフにします。

```
shutdown [reason] [no-prompt]
```

(注) **[no-prompt]** キーワードを使用した場合、コマンドを入力するとシャーシはすぐにシャットダウンします。**[no-prompt]** キーワードを使用しない場合、システムはユーザが **commit-buffer** コマンドを入力するまでシャットダウンしません。

システムはそのシステム上で構成されているすべての論理デバイスをグレースフルにシャットダウンし、最終的に Firepower 4100/9300 シャーシの電源をオフにする前に、セキュリティ モジュール/エンジンの電源を個別にオフにします。このプロセスには約 15～20 分かかります。シャーシが正常にシャットダウンすれば、シャーシの電源コードを物理的に抜くことができます。

ステップ3 シャットダウンプロセスをモニタするには、次の手順を実行します。

```
scope chassis 1
```

```
show fsm status
```

工場出荷時のデフォルト設定の復元

FXOS CLI を使用して Firepower 4100/9300 シャーシを工場出荷時のデフォルト設定に戻すことができます。



(注) このプロセスによって、論理デバイス設定を含むすべてのユーザ設定がシャーシから消去されます。この手順が完了したら、システムを再設定する必要があります ([初期設定](#) を参照してください)。

手順

ステップ1 (任意) **erase configuration** コマンドはシャーシからスマート ライセンス設定を削除しません。スマート ライセンス設定も削除する場合は、次の手順を実行します。

```
scope license
```

```
deregister
```

Firepower 4100/9300 シャーシの登録を解除すると、アカウントからデバイスが削除されます。さらに、デバイス上のすべてのライセンス資格と証明書が削除されます。

ステップ2 ローカル管理シェルに接続します。

```
connect local-mgmt
```

ステップ3 Firepower 4100/9300 シャーシからすべてのユーザ設定を消去し、最初の工場出荷時のデフォルト設定にシャーシを復元するには、次のコマンドを入力します。

erase configuration

すべてのユーザ設定を消去するかどうかを確認するように求められます。

ステップ4 設定の消去を確認するには、コマンドプロンプトに **yes** と入力します。

すべてのユーザ設定が Firepower 4100/9300 シャーシから消去された後、システムがリポートします。

システムコンポーネントの安全な消去

FXOS CLI を使用して、Firepower アプライアンスのコンポーネントを安全に消去することができます。

「[工場出荷時のデフォルト設定の復元 \(17 ページ\)](#)」で説明されているように、**erase configuration** コマンドを実行すると、シャーシのすべてのユーザ設定情報が削除され、工場出荷時のデフォルト設定に戻ります。

erase secure コマンドにより、指定したアプライアンスコンポーネントが安全に消去されます。つまり、単にデータが削除されるだけでなく、物理ストレージが「ワイプ」（完全に消去）されます。これは、ハードウェアストレージコンポーネントが残存データやスタブを保持しない状態で、アプライアンスを転送または返却する際に重要です。



(注) 完全消去中にデバイスが再起動します。これは、SSH接続が終了したことを意味します。したがって、シリアルコンソールポート接続を介して完全消去を実行することをお勧めします。

手順

ステップ1 ローカル管理シェルに接続します。

connect local-mgmt

ステップ2 指定したアプライアンスコンポーネントを安全に消去するには、次の **erase configuration** コマンドのいずれかを入力します。

a) **erase configuration chassis**

すべてのデータとイメージが失われ、回復できないことを警告するメッセージが表示され、続行するかどうかの確認が求められます。**y** を入力すると、Firepower シャーシ全体が安全に消去されます。セキュリティモジュールが最初に消去され、その後にスーパーバイザが消去されます。

デバイス上のすべてのデータとソフトウェアが消去されるため、デバイスリカバリはROM モニタ (ROMMON) からのみ実行できます。

b) erase configuration security_module module_id

モジュール上のすべてのデータとイメージが失われ、回復できないことを警告するメッセージが表示され、続行するかどうかの確認が求められます。**y**を入力すると、モジュールが消去されます。

(注) **decommission-secure** コマンドの実行結果は、基本的にこのコマンドを実行した場合と同じです。

セキュリティモジュールが消去されると、確認応答されるまでダウンした状態になります (デコミッションされたモジュールと同様)。

c) erase configuration supervisor

すべてのデータとイメージが失われ、回復できないことを警告するメッセージが表示され、続行するかどうかの確認が求められます。**y**を入力すると、**Firepower** スーパーバイザが安全に消去されます。

スーパーバイザ上のすべてのデータとソフトウェアが消去されるため、デバイスリカバリは ROM モニタ (ROMMON) からのみ実行できます。
